



新年のごあいさつ

鶴居村長 大石 正行

村民の皆様、あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと謹んでお慶びを申し上げます。また、村民の皆様には常日頃より村政各般にわたり格別のご支援、ご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。

さて、昨年の国外情勢を振り返りますと、未だ収束する気配すら見えないロシアによるウクライナ共和国への侵攻、さらに中東ガザ地区におけるイスラエル・パレスチナの紛争など、国際情勢の不安定化に加え長く続く円安により、輸入原材料や原油価格の高騰、電気料金の高止まり等が継続しており、諸物価の上昇による国民生活への影響は計り知れないものとなっております。

一方で、昨年はスポーツで沸いた一年でもありました。3月に開催されたWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）では「侍ジャパン（野球日本代表）」が世界一に返り咲き、7月から8月にかけてフランスで開催されたパリ・オリンピックでは、海外で開催された五輪のメダル総数の過去最多を更新しました。また、メジャーリーグでも多くの日本人選手が活躍し、北海道日本ハムファイターズ所属時の平成24年に本村の応援大使を務めた大谷翔平選手は、前人未到の50本塁打50盗塁を達成し、所属するロサンゼルス・ドジャースはワールドシリーズ優勝に輝きました。村内においても、陸上競技やソフトテニスで多くの小・中学生が北海道大会や全国大会に出場し優秀な成績を収められました。あらためて、スポーツはいつも私たちに勇気と感動を与えてくれます。

また、地域の動きに目を向けますと、前年度から工事着手しております鶴居中学校校舎等の大規模改修工事がまもなく完了を迎えます。完成の暁には、在校生徒をはじめ、地域住民の皆様におかれましても、村の教育拠点施設として大いに活用いただきたいと考えているところであります。

一方で、3月末をもって長い歴史に幕を閉じる幌呂小学校、幌呂中学校が、それぞれ鶴居小学校、鶴居中学校へ統合することが決定しております。卒業生をはじめ幌呂地域の皆様にとって、長年慣れ親しんだ思い出深い学び舎が閉校となることは哀惜の念に堪えないことと拝察いたしますが、閉校後の校舎・体育館等の施設については、幌呂地域の活性化に資するよう有効利用を検討してまいります。

近年は、全国的に気温30度を超える日、地域によっては気温35度を超える日が続くなど、熱中症などの健康被害が多発する災害レベルの猛暑に悩まされています。このことは本村にとっても

例外ではなく、「地球温暖化」の進行に対応すべく、昨年、小中学校をはじめ各公共施設等における暑さ対策を実施したところであり、今後も「ゼロカーボン」への取組を積極的に推進してまいりたいと考えております。

基幹産業である酪農畜産においては、昨今の畜産クラスター事業による近代設備の導入や経営規模の拡大等によって生産基盤の強化が図られている一方、牛乳・乳製品の需要減少や急激な生産資材、飼料の価格高騰により厳しい経営環境にあります。

村は、これまでも釧路丹頂農協などと協調して、牛乳の消費喚起や原油価格の高騰に伴う緊急経済対策支援補助事業、飼料価格高騰緊急対策補助事業等による経営支援を講じてきたところであり、今後も農業団体や農業者などととも今後における農業情勢の把握や分析、農家経営の実情等を注視しながら、必要な行動や対策を検討してまいります。

新たに迎えた令和7年は、本村の強みや特質を活かしながら、村民の皆さんの潤いのある暮らしを確保するとともに、酪農畜産の持続的な発展や観光をはじめとした地域経済の好循環、医療福祉の確保、教育環境の向上のほか、本村のかけがえない自然環境の保全や景観に配慮するなど、村が一丸となって「美しい村づくり」の推進に努めてまいりたいと考えております。

私においても、昨年5月に4期目の任期をスタートさせていただきました。村が取り組んでいかなければならない事務事業が山積しており、つるい未来創造プラン（第5次鶴居村総合計画）のテーマであります「未来を奏でる鶴居スタイルの確立～協働による新たな時代への挑戦～の実現を目指し、全力で邁進していく所存であります。

今年の干支は「乙巳（きのと・み）」であります。

「乙」は十干の2番目の文字で、困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表しており、「巳」は蛇のイメージから「再生と変化」を表しているようで、この2つの組み合わせである乙巳には、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起の良いものとされています。これまで積み重ねてきた努力という種が実を結び、物事が成長・発展し形を成す、そんな素晴らしい実りある1年になって欲しいものと心から願っております。

結びに、新年が鶴居村にとって、村民の皆様とともに光り輝く飛躍の一年となりますよう、心からご祈念申し上げ、謹んで年頭のごあいさついたします。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



新年のごあいさつ

鶴居村議会議長 松井 廣道

新年あけましておめでとうございます。

希望に満ちた新春をご家族お揃いで迎えられましたこと、謹んでお慶び申し上げます。

村民の皆様には、日頃から村議会に対しまして深いご理解と温かいご支援を賜り、議員一同、深く感謝とお礼を申し上げます。

昨年は、新年早々に石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の巨大地震が発生しました。この地震により、石川県を中心に甚大な被害が出ており、多くの方々が被災されました。未だに被災地の復旧及び復興に向けた活動が懸命に進められています。本村においては、大きな災害はありませんでしたが、地震はいつ起こるかかわからないため、日頃から防災意識を持ち、備えておくことが大切だと改めて強く思うところであります。

また、コロナ禍からの脱却が進み、観光業や消費活動が活性化し正常化する中で、ロシアによるウクライナへの軍事侵略はじめ、世界的なサプライチェーンの混乱やエネルギー価格の高騰により、物価が上昇し日常生活への影響も大きく、基幹産業の酪農においても非常に厳しい一年となったのではないかと思います。

こうした状況でありましたが、パリオリンピック・パラリンピックが開催され、日本の選手は多くの競技で活躍し、新たな若手選手の活躍も話題となりました。中でも、女子やり投げでは、金メダルを獲得し日本に大きな感動を頂き、誇らしい一年でもありました。村内では、鶴居アスリート

クラブをはじめ様々なスポーツで将来、鶴居村出身又はゆかりのあるアスリートの活躍も夢ではありません。村民のスポーツ活動振興や健康維持と増進に期待いたします。

村内においては、1924年10月に釧路湿原でタンチョウが発見されてから昨年で100年を迎えました。鶴居村の先人たちは、この100年間幾年月の日々を深い愛情とたゆまぬ努力を積み重ねて、タンチョウの保護に努められました。その美しい姿を間近で見ることができる自然を未来へと引き継いでいきたいと思っております。

今年の干支は「巳（へび）」であります。

巳（蛇）は、古くから神の使いとして信仰の対象とされてきた動物で、豊穡や金運を司る神様として祀られてきました。脱皮することから「復活」と「知恵や再生」を意味し、不老長寿など縁起のいい動物として考えられているそうです。

令和7年は巳年にあやかり、鶴居村、鶴居びとにとりまして、新たな知恵を得て飛躍する年となることを願うところであります。

本年におきましても議員一同全身全霊を傾注し、村民お一人おひとりの声が村づくりに反映できるよう取り組んで参る所存でありますので、皆様さらなるご支援を心よりお願い申し上げますとともに、何よりも村民の皆さま方がご健勝で幸多い素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ年頭のご挨拶と致します。

あけまして おめでとう ごぞいます

村 長 大石 正行
副 村 長 高松 一哉
教 育 長 村上 明寛

鶴居村議会
議 長 松井 廣道
副 議 長 松井 洋和
議 員 吉田 保博
議 員 東 隆行

議 員 佐藤 吉人
議 員 松井 俊治
議 員 大津 泰則
議 員 及川 満浩
議 員 板 宏哉

監査委員
代表監査委員 灰塚 玲子
議選監査委員 大津 泰則

教育委員会
教育長職務代理者 高橋 文雄
委 員 坂本 和也
委 員 藤原 千晶

農業委員会
会 長 明歩谷正志
委 員 手塚 信幸
委 員 水本 梨佳

委 員 増田 慶一
委 員 瀧澤 一成
委 員 塩越 克哉
委 員 齊藤 滋
委 員 東 隆行
委 員 熊谷 郁子

選挙管理委員会
委 員 長 渡辺 巖

職務代理者 白木 良雄
委 員 松井 基廣
委 員 大槻 典行

固定資産評価審査委員会
委 員 長 野澤 弘幸
委 員 松井 基廣
委 員 竹中 憲之

ほか職員一同